

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2016年 3月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2016年 3月1日発行 通巻275(毎月1回発行)

創立50周年を

仲間と一緒に楽しもう

3月号目次

・ 目 次	2
・ 2月理事会報告	3
・ 全国連盟総会参加報告	4
・ 雪上技術講習会案内	5
・ ふれあいハイク案内	6
・ 房総ロングハイク実施報告	7
・ 関東ブロック深雪訓練参加報告	8
・ NPO「ちば労山ゆう」通常総会案内	13
・ 雪掻きボランティア実施報告	14
・ 県連便り	17
・ 3月・4月予定表	18

第32回・房総ロングハイクが実施された。

今回は、都連名・世田谷山友会から3名の参加もあり、66名の参加があった。都連盟の仲間は、郡界尾根縦走にも何回か参加してくれている。房総の自然の素晴らしさを実感して、今回も参加したとの事である。私達も近くて良い山、ふるさと房総の山を見直したいと思う。

50周年記念事業「房総の山・50選」も最終段階に入っている。会の仲間と誘い合って、一つでも多くの山を楽しんで下さい。これからの房総は、次々に咲く花々の香を楽しんで登り、下りてからは地酒・地湯を楽しんでいただきたい。

—— 編集者 ——

2016 年 2 月度理事会報告

■開催日時:2 月 18 日(木)19:00～

■開催場所:船橋市西部公民館

■出席:ちば山、茂原、ふわく、東葛、遠足、らんたん、かがりび、あびこ、こまくさ、シリウス、岳樺、自然保護、教遭、ハイキング、救助隊、会長、理事長、副理事長、会計(山翠会理事兼任)、ふれあい担当、全国理事、顧問 以上 22 名

■配布資料

- ・第 16 回ふれあいハイク参加者募集
- ・「登山時報」の拡大についてのアンケート
- ・総会議案書の報告案および方針案

■議題

1. 委員会・救助隊報告

*教育遭難対策委員会(岡田賢)

- ・雪上技術講習 4/2 実施、谷川・マチガ沢出合付近

・救助隊主管にて行う

*救助隊(吉田重)

- ・2/13,14 関東ブロック深雪訓練、谷川、5 名参加
- ・4/2 の雪上技術講習は4班に分かれて行う。詳細は3月の例会にて決定

*ハイキング委員会(桑原)

- ・第 32 回房総ロングハイク 65 名参加
- ・崩壊箇所多く、コースを一部割愛した
- ・ウィークデー山行はふれあいハイク、50 周年行事に協力していく

*自然保護委員会(菅井)

- ・特に報告なし

2. ふれあいハイク関連(岡田正)

- ・5/29 実施、場所:房総鹿野山(雨天の場合は有明のパナソニックセンター見学)
- ・バス 3 台(1 台は鎌ヶ谷市役所発、2 台は千葉 NTT 前)
- ・参加費 3,500 円

3. 全国連盟より(山本)

- ・「登山時報」は長く赤字続きである

ので、地方連盟の意見等を集約して改善していきたい

- ・千葉は 9 の会が購読無し→1 部でも購読して欲しい

- ・アンケートを各会にお願いし、山本が集約して千葉県連の意見として提出する

4. 50 周年関連(広木)

1)房総の山 50 選

- ・報告書の提出は割り振った一覧に沿ってお願いしたい→3 月末まで
- ・報告書は安彦氏(東葛山の会)作成のものを使用のこと

2)記念誌について

- ・今のところ白紙状態

5. 総会関連(広木)

- ・議案書を討議→誤字・脱字等があれば広木まで
- ・議案書・資料の印刷を 2/23 に行うので、協力をお願いしたい
- ・交通費を支給→会場までの交通費を各自確認の事
- ・理事・役員は 10 時集合後、理事会を行う
- ・総会後の懇親会参加人数を各会で集約して岡田まで連絡のこと

6. NPO ゆうの支援活動

- ・3/19,20 で石巻・谷川浜
- ・今回で石巻は最後になるので、多く参加して欲しい

7. その他

- ・全国連盟総会(2/20,21)の代議員 桑原(松戸山の会)、安彦(東葛山の会)、斉藤(ちば山の会)

■今後の理事会日程について

- ・新年度 3 月 17 日(木)場所:船橋市西部公民館 時間:19 時より

全国連盟総会・参加報告

千葉県連盟・参加者一同

日本勤労者山岳連盟 第32回総会が下記とおり開催され、千葉県連盟から代議員3名・傍聴者1名・全国連盟理事3名が参加した。

- ◆ ・ 実施日 2016年2月20日（土）・21日（日）
- ・ 会場 晴海グランドホテル
- ・ 代議員数 総数 83名 出席数 68名

◆ 主な議案

- ・ 第31期下期の活動報告と第32期上期（2016年度）活動方針
- ・ 第31期の財政活動報告と第32期の財政方針
- ・ 「各部局および専門委員会に関する」改訂
- ・ 全国連盟役員の選出

◆ 主な目的と課題

- ・ 組織拡大と労山理念の普及。
- ・ 重大事故をなくす安全教育・訓練を強化する遭難対策活動。
- ・ 平和と登山を普及し、登山文化を発展させる取り組み。
- ・ 登山文化・技術を次世代に継承するため「全国登山研究集会」の再開。

◆ 労山組織の現状

労山の会員数は、2015年11月末の集計では、625団体・会員数19,985名となり、前年に比べて651名が減少した。

（各県連盟別の集計は、増加は6連盟・89名、増減0が7連盟、減少は35連盟・740名で651名の減となった）

2万人を割った深刻な現状を克服する、具体的な活動の提案はなかった。会員数の減少を受けてスタートした「個人会員制度」も成果を得られず低迷している。組織強化に対する長期方針が無いように感じられた。

◆ 登山時報に対する提案

登山時報は、減誌が続いている。赤字発行になっている現状を克服する方針の提案があった。購読0の会の1部購読など、県連盟や加盟会への協力要請もあった。活字離れを指摘されている中で、現在の紙面・内容・価格で支持を得られるのか、理解のある会員頼みになってしまうなど、考えさせられた。組織にとっての必要性だけでは増えないのではないか。

◆ 参加して、特に感じ事

- ・ 地方連盟の活動・考えなどに、地域差を感じた。
- ・ 全国連盟と県連盟のパイプは、登山時報・労山ニュースでは不十分だと思う。現状では、お互いを理解する事は出来ないと思う。
- ・ 参加した事は有意義だったと感じた。懇親会では、率直な意見交換が出来て議案書討議などより有意義だった。

2016 雪上技術講習の案内

千葉県連教育遭難対策委員会

2016年度も、残雪期の事故防止を目的とし、単独での実施が難しい会・クラブを念頭において、県連救助隊を中心に県連盟主要会・クラブの協力を頂いて、下記の通り開催します。

各会よりの積極的な参加をお願いします。

記

- ・ 実施日 2016年4月2日(土)
 - 7:30 現地集合
 - 8:00 講習開始
 - 13:00 講習終了
- ・ 場 所 谷川岳 マチガ沢出合い付近
- ・ 参加費 500円/人(各会でまとめて、現地清算)
- ・ 宿 泊 土合駅 マチガ沢出合い付近 土合山の家
(注) ロープウェイ駅待合室は宿泊不可
- ・ 主 催 千葉県連教育遭難対策委員会
- ・ 主 管 千葉県連救助隊
- ・ 協 力 ちば山の会 船橋勤労者山の会 千葉AC 山の会「岳樺クラブ」他
- ・ 日 程 4/2(土) 現地集合7:30 開始8:00～13:00
4/3(日) は自由行動
- ・ 内 容 雪上技術訓練 初級及び中級
一般的な冬山登山でのロープワーク含む。
- ・ 交 通 各会・クラブ毎をお願いします。
- ・ 宿 泊 土合駅 マチガ沢出合い付近又は土合山の家
- ・ 持参装備 雪山装備一式
ロープ1各班毎(9*45 8*30等)
- ◆ 注 意 ロープウェイ駅待合室は宿泊不可
- ◆ 参加会の事前打ち合せ: 3/24(木) 19:30～県連事務所
- ◆ 申込み 3/13(日)までに 別紙申込書にて遭対委員会岡田まで
- ◆ 連絡先 e-mail: ken-ichi@f4.dion.ne.jp 又はfax: 043-271-4704。

県連盟では、初級講習会・事故防止交流集会・ワンコイン講習会・そして今回の「雪上技術講習会」等を実施しています。

楽しい山行をサポートする講習会です。会・クラブの山行仲間と一緒に参加して、技術力をアップして下さい。

第16回ふれあいハイイク参加者募集

実施日 2016年5月29日 日曜日(雨天決行)

行き先 鹿野山 神野寺～九十九谷展望台～神野寺～国土地理院測地観測所～神野寺

交通 観光バス3台(内 リフト付 1台)

集合場所 ① 1台 鎌ヶ谷市役所(普通観光バス なのはな観光)

② 2台 NTT前(リフト付1台 普通観光バス なのはな観光)

集合時間 ① 鎌ヶ谷市役所 7:20集合 7:30出発 千葉NTT前にて班毎に乗車

リーダー 東葛山の会 高見さん

出発 ② NTT前 8:30集合 8:45出発

参加費 1人 3,500円(保険料含む)

コース NTT前 8:45出発～蘇我IC～君津IC～神野寺駐車場～神野寺～九十九谷展望台～神野寺～国土地理院測地観測所～神野寺駐車場～君津IC～蘇我IC～NTT前～鎌ヶ谷市役所

募集人数 障害者40名(車イス10台)、労山80名～100名

雨天の場合 海ほたるを経由して、東京・有明にある「パナソニックセンター」を見学予定
(オリンピック、パラリンピックを展示)

ふれあいハイイクは、千葉県連盟の伝統的なボランティア行事です。

山の会としての、社会貢献として取り組んで来ました。16回目として、千葉県連盟より「80名～100名」の参加をお願いします。

地元、鹿野山の神野寺・九十九谷展望を楽しみ、障害者と一緒に楽しい交流をしましょう、会を挙げて参加して下さい。

参加者名簿(コピーして使用して下さい)

会・クラブ名

	名 前	男・女	年齢	乗 車 場
1		男・女		千葉 鎌ヶ谷
2		男・女		千葉 鎌ヶ谷
3		男・女		千葉 鎌ヶ谷
4		男・女		千葉 鎌ヶ谷
5		男・女		千葉 鎌ヶ谷
6		男・女		千葉 鎌ヶ谷
7		男・女		千葉 鎌ヶ谷
8		男・女		千葉 鎌ヶ谷
9		男・女		千葉 鎌ヶ谷
10		男・女		千葉 鎌ヶ谷
11		男・女		千葉 鎌ヶ谷
12		男・女		千葉 鎌ヶ谷
13		男・女		千葉 鎌ヶ谷
14		男・女		千葉 鎌ヶ谷
15		男・女		千葉 鎌ヶ谷
16		男・女		千葉 鎌ヶ谷

送り先

岡田正勝 (千葉こまくさハイキングクラブ) (ふれあいハイキング担当)

E-mail iwakagami412@polka.ocn.ne.jp

締切 2016年4月21日(木)

第 32 回 房総ロングハイキング終えて

山行日 2016 年 1 月 30 日（土）、31 日（日） 一泊二日

参加者 松戸山の会 9 名、かがりび 4 名、岳人あびこ 10 名（1 名 30 日のみ）、東葛山の会 22 名
以上 45 名バス組 東京（世田谷山友会より）3 名参加 合計 66 名参加

こまくさ HK 9 名、ちば山の会 4 名（2 名 30 日のみ）、ふわく HS 4 名、茂原道標 1 名
30 日（土）雨のち雲

東葛地区バス組 45 名は我孫子駅 6:00 発＝鎌ヶ谷市役所 6:10 発＝ふらり富山道の駅
8:30 着（雨天の為リタイヤ組 10 数名はふらり水仙ロード散策して待機）他は乗車＝
採石駐車場 9:10/9:25 登山出発＝登山口 9:40＝絶景地 10:00/10＝西峰山頂 10:30/40
＝鞍部＝津辺野山 11:00/10＝峰岡中央林道登山口 11:55＝別荘地分岐 12:00/20＝水仙
ロード経由＝採石駐車場 13:20 着 乗車＝道の駅経由七里川温泉直行 15:10 着 合流。
17:30 大広間集合 司会進行・小山（こまくさ）で始まり広木県連会長・林世田谷山
友会諸氏に挨拶を戴き、高見委員の乾杯の音頭で交流会が始まりました。途中で安彦
（東葛山の会）、広川（松戸山の会）の千葉の山 50 座完登、及び歩行苦労話を聞き夕食
を摂り、交流会で盛り上がり、早目の就寝で終わりました。

出発は雨でどうなる事かと悩みましたが、なんとか完登出来て良かったです。

31 日（日）曇から晴れ間

6:00 温泉の脇から出発する。石尊山 7:00/10 までは順調でしたが途中から崩壊箇所や
雨上がりで滑る箇所などあり、ゆっくり通過した為にモミ太郎 9:45/10:00 と遅れ気味
になり、麻綿原に到着が 11:00 になってしまった。

休憩して出発しましたがこのまま進むと坂本部落着が 16:00 過ぎになる為、一杯水林
道分岐で全員の意見を聞き、一杯水林道から清澄妙見山（50 座）を登り、清澄寺を
ゆっくり散策して 14:00 に駐車場集合とする。

七里川温泉に電話して急ぎ預けた荷物を届けてもらい、待機していたバスとも合流し
て、全員集合した所で解散式を行い其々バスに乗り早目の帰路になりました。

参加の皆様ご協力有難うございました。 ハイキング委員長 桑原年一（記）



2016 年 関東ブロック救助隊交流集会参加報告

千葉県連盟救助隊 萱野 香織(ちば山の会)

- ・ 日程: 2月13日(土)、14日(日)
- ・ 場所: 1日目、白毛門駐車場周辺。2日目、西黒登山道下部。
- ・ 宿泊: 土合山の家
- ・ 参加メンバー【5人】: 徳永和也(千葉アルパインクラブ/CL)、神山寿子(千葉アルパインクラブ/SL)、加倉井隆彦(松戸山の会)、小林美智子(岳樺クラブ)、萱野香織(ちば山の会/記録)
- ・ 天候: 2/13(土)概ね曇り、2/14(日)午前 小雨、午後 曇り。積雪例年より少ない。

・ **2/12(金)** 萱野宅から各メンバー宅を順番にピックアップして、その日の宿泊場所である土合駅へ向かう。土合駅へ1:00頃到着する。去年の事があったので、前夜発とした。
この時期の関越は渋滞や事故が多いようだ。去年は、事故渋滞が原因で遅刻をしてしまった。今回も朝出の中には渋滞で遅れた人もいたようなので、前夜発がベストだった。

・ **2/13(土)** 9:30に土合山の家で参加者の受付をすませる。10:15には身支度を整えた形で、玄関前に集合。今回の主幹の埼玉からの挨拶やオリエンテーションが行われた。
講師(渡邊輝男氏)、神奈川(5名)、群馬(9名)、栃木(1名)、千葉(5名)、埼玉(33名)、2日間の合計で総勢54名ほどの参加者となる。
10:30頃白毛門駐車場へ場所を移動して、それぞれの県で決められた役割にて、搜索・救護・梱包・搬出・引き揚げ・引き下げ等の訓練を行った。

1. 雪崩発生後の搜索(埼玉)

※ ビーコン(アバランチトランシーバー)とプローブを使用して埋没者の搜索。

講師によれば、平均の埋没深は1.2mくらいの位置とのこと。

【感想/萱野】埋没者発見後の埋没者のビーコンをまずにオフにして、救助活動をしている側のビーコンを送信モードに切り替える等ができていないように思われた。また、2次的な遭難を防ぐ為の監視役の人が、訓練とはいえ、明後日の方向を見ている場面もあったし、あまり指示を的確にしているようには見えなかった。

探す方は必至なので、監視役がしっかりしないと搜索活動はスムーズに機能しないものだった。

2. 救護(埼玉)

※ スノーマウントを作りその中でお湯を沸かしてスノーマウント内の温度と湿度を上げる。暖かい蒸気がポイントのようだ。講師の方の話によると、人は鼻から吸った空気が鼻を通る時に温めて温度を上げて体内に取り込むからという事だ。

【感想/萱野】

今回は、スノーマウントとテントの両方を用意していた。訓練という事で両方を用意しているようだ。

どちらが良いかというのは、その時の場所や気象状況よりなので、どっちが良いというのは無いらしい。臨機応変に対処する。ザックを使ったスノーマウント作りも慣れた人達であれば、10 分くらいで完成できるようだ。半分雪洞だったり半分ツェルトだったり、色々と方法はあるようだ。今回は、埋没者が呼吸を確保された後、そのまま体は雪に埋もれたままで放置されていた。(当然、声掛けを付き添う人がしっかりとしているという前提だと思われる。)参加者の他の人の意見によっては、すぐに掘り起して手足等をマッサージしたりしたほうが雪に埋もれたままより良いという事だったが、どうやら、埋もれたままの方が、外気の影響なども受けにくく体温の急激な低下を防ぐというお話だった。ただし、埋没者の体のまわり掘って、何かで覆うという事をして避難場所の準備ができるまでの間を待機していたほうが良いそうだ。



3. 梱包(神奈川/栃木)

※ 昨年の主幹だった神奈川の人がメインで手際よく2体梱包を作った。スケッドストレッチャーを使用した。この日の梱包は内側がキチンと梱包されていた為か、スケッド側はあまりタイトに締めてはいないようだ。ロープは正しくスケッドの周囲を縫うようにセットされていた。



【感想/萱野】

色々なポイントがあるので、練習を何度もやらないと出来ないと思った。

4. 搬出・引き上げ・引き下ろし(群馬/千葉)

※ 群馬と千葉でそれぞれ1体ずつ引き上げと引き下げを行う。

群馬は1/3の引き上げシステムで、千葉はカウンターで引き上げを試した。

引き下ろしに関しては、エイト環等でコントロールしながら下ろした。

【感想/萱野】

私は付き添いの役をしましたが、自分が歩くのもままならない様な斜面でスケッドを引っ張るのは大変な重労働だった。おそらく、1/3システムだったら、そこまでの力は不要だったのだろう。仮にスケッドも無ければ、人力のみで引き上げる事なんてできないような気がした。引き下ろしに関しては、ある程度の斜度があれば問題ないが、やはり最後の平らな部分の運搬に苦労した。



その後、一連の流れ復習を行い、翌日の班分けA班(群馬の茂木リーダー)とB班(千葉の徳永リーダー)を決めた後、宿へ戻り、班毎に翌日の訓練の打ち合わせを16:00頃まで行う。その後入浴、18:00夕飯、19:00より各県連救助隊の活動報告・懇親会が行われた。

他県のベテランの方々のお話はとても為になった。

・2/14(日)天気予報通りの朝から雨模様。隊員のテンションも下がり気味だ。雨でも訓練は行うという事だったので、6:30から朝食を済ませ、黙々と準備を整え、7:30過ぎには玄関前に集合。

諸々の挨拶や説明が終わり、まずは、熊谷トレッキング同人(バックカントリースキーのクラブ)の普段やられている搜索雪トレのデモンストレーションを観させてもらう為に白毛門の駐車場へ移動。

8:00 雨が降る中、熊谷トレッキング同人がスキー登高中に雪崩に遭遇し、人が雪に埋まってしまったというシチュエーションでのグループ搜索の練習を見学させて頂いた。

一人埋まった場合や二人埋まった場合など。一通りのデモが終了後、実際に雪崩に遭遇した時のお話しをして頂き、質疑応答を行う。

【萱野/感想】

自分自身がビーコンを使用して山へ行った事が無いので、ビーコン搜索の訓練をした事も見たことないので、何をやっているかは理解できましたが、自分は練習に参加するレベルの知識も何もないと思いながら見学していた。ただ、訓練中の参加者の真剣な態度が

伝わってきた。実際に人が埋まっているのだという気持ちを持つての訓練は大切だと思う。

実際に雪崩にあった時のお話しを聞くと雪崩が比較的起きないだろうという状況下で起きている事もあるのでバックカントリースキーヤーやボーダーに関係なく雪山へ入山する人のビーコンの携帯は必要なのではないかと考えさせられた。携帯するだけでいざという時に使用できなければ全くの無意味なので、訓練は特に重要だと思う。



9:30 西黒下部へ移動して、群馬県連の茂木氏隊長の A 班と千葉県連徳永氏隊長のB班、それぞれ15名程度ずつに別れて、搜索・救護・梱包・搬出・引き揚げ 1 ピッチの引き下げ 2 ピッチで谷川指導センターまで搬送訓練を行った。

昨日、訓練をした場所よりは斜度があつた。私は、徳永リーダーのB班へ所属して、付き添い役をした。みんなが夢中で訓練をしている間に雨も上がっていた。

【萱野/感想】

主に梱包の手伝いと引き揚げと引き下げ運搬に携わった。

搬出は栃木式でスリング+3人くらいで問題なく要救助者を移動できる方法を行った。

ヒューマンチェーンよりも効率がかなり良さそう。梱包も栃木式で昨日のものとは違う、簡単に素早く梱包できた。

スケッドストレッチャー内の梱包はスリング等で固定はせずにスケッド自体のバンドをかなりきつく締める事で緩みもなく、時間的に素早く梱包することができた。時間が大分節約できる。運搬中の崩れも全くなく、救助されている人の居心地も問題なかったようだ。(両肩の下に割と沢山のクッションとなるものを入れるのがコツだと仰っていた。)ただ、昨日と違い、スケッドの周りをロープで縫うように取り付けていなかったのも、万が一の時にはリスクが高いと指摘もされていたようだ。強度がどれだけあるかは知らないが、そこは手抜きせずロープを周囲に通した方が安全だろうと思われた。急斜面深雪での付き添いは、かなり難しい。自分が滑落や穴に落ちないようにするのも必至だし、要救助者への声掛けもしなくてはならない。平坦な場所での搬送は力が必要だった。あらためて、2次的な事故に遭遇しない自分自身の体力づくりや技術向上も必要だと思った。



A 班、B 班と訓練内容に若干の差があったためか、終了時間に時差があったが、12:30 頃には土合山の家へ全員が戻り、反省報告を行い、14:00 前にはお開きになった。その後、渋滞にもはまらず、千葉へ帰宅できた。今回はプロの講師の方、また、各県のベテランの方々から教えて頂く事は全てが勉強になった。とても良い講習会だった。来年も是非、参加したいと思う。



第 4 期 「NPO 法人ちば労山ゆう」 通常総会開催のお知らせ

日頃より、ちば労山ゆう活動へのご参加・ご協力に感謝申し上げます。

大震災からまもなく 5 年になります。多くの仲間の声に押されて立ち上げた「ちば労山ゆう」の活動も、4 年を経過しようとしています。この間、多くの方に正会員・賛助会員になっていただき、我々の活動を支えてくださいました。手探りながらも、出来る限り、被災地・被災者に寄り添う支援活動を継続してこれましたのも、会員諸氏・団体及び善意の多くの個人の方々の熱い想いと支援の賜物だと深く感謝申し上げます。

私たちの活動は、今年度より石巻から福島へとその拠点を移してきました。漁業支援がメインだった石巻は、徐々にではありますが復旧・復興への道のりが見えてきたように思いますが、一方、福島は原発の事故により故郷を寸断され帰還の目処すらたっていないところも多くあります。その福島には今後も支援をしていく必要があると判断し、来年度も活動を継続していきます。

今後の活動の方向性を決める大切な総会ですので、NPO 会員のみなさまには、万障繰り合せてご出席いただきますようお願い申し上げます。

記

- 開催日時：4 月 14 日（木） 19：00～20：30
- 開催場所：船橋市西部公民館 第 4 会議室
- 審議事項：1. 2015 年度決算および活動報告
2. 2016 年度予算および活動方針

開催場所案内

JR 下総中山駅、または京成中山駅から徒歩約 7 分



東北山形戸沢村、雪掻きボランティアの報告

ちば山の会 長池康雄

山形県の中央部を、南北に振り分けて流れる最上川の中程に戸沢村はある。

「限界集落」に近い過疎が進みつつある村である。けれども、この村の議員さんや民宿のご主人や役場の方々は燃えんばかりの情熱にあふれている。当地の方々との馴初めは、支援活動に訪れた牡鹿半島の谷川浜であり、未曾有の大災害を我が事とする同志なのである。昨年、ここを訪れ村の方々といっしょに雪掻き作業に汗を流したことがあり、このときの村の人々の優しさや、それにも増す村の活性化への情熱に感動したことがあって再び今年、ここを訪れることにした。

- 1、日時 2016.2.6（土）～8（月）前夜発2泊3日
- 2、場所 山形県最上郡戸沢村
- 3、参加者 かがりび山の会：山本夫妻、木村、（山本友人）高原
ふわくハイキングサークル：佐藤
ちば山の会：長池

4、報告

【活動経過】

- ・2/6（土） 最上川舟下りと、いきいきランド“ぽんぽ館”
- ・2/7（日） 村内での除雪作業と、肘折温泉“
- ・2/8（月） 村役場（ボランティア申請）と、山寺立石寺

【最上川舟下り】

陸羽西線古口駅近くの戸澤藩船番所からガラスの天側板に覆われた伝馬船に乗る。中央に炬燵が置かれ冬季でもまったく寒さ知らずの観光船である。船頭が艫に、ガイドさんが舳先に座り良い声で船唄を唄い芭蕉の句を口ずさむ。兩岸は雪に覆われ、早瀬では波が立って舟底をドンドンと打つ。映画「おしん」が奉公に出されて母親と別れるシーンを撮ったという川岸、仙人堂、白糸の滝など岸辺の光景がある。

【除雪作業】

藤製カンジキ、スコップ、ママダンプは除雪の三つ道具、豪雪地帯のこのあたり、どちらのお宅にも備えてある冬の必需品だ。軽トラにこれらをドンと積んで最初のお宅に向かう。おばあさんとおくさん、女手のご家庭で家を取り巻く深さ2mほどの雪の山に埋まっている。こちらの豪雪地帯では家の近くに流水溝が引き回されていることが多く、雪を排除するための仕組みが上手に設えてある。雪の山にスコップで縦に切り溝を入れ、横からスコップを差し込んで角ブロックに切りだした雪の塊を捨て場に放り投げる。これが効率の良い雪掻きのコツだと地元のおじさんから薫陶を受ける。なるほど、なるほど！

一方、ママダンプもスコップ何振り分かの効率の良い雪運搬器だ。

約2時間。我々と地元の議員さん、民宿のご主人、元役場の職員などなど。軒下の雪山が取れ周囲が明るくなって作業終了。家の中に招かれていろいろを囲みお茶やお菓子で一休み。年を経た神棚や壁のくすみ、燻された梁の色合い、昔日の田舎の我が家を思い出し感慨ひとしおだ。

2軒目は独居老人のお宅。やはり玄関周りから家の外周は厚い雪の壁に包まれていた。家の裏に流水溝が通っていてママダンプで運んだ雪を流しこむ。なかなか合理的な住まいと雪捨場のレイアウトだ。ここも1時間ほどで作業は終了し玄関先のタイル床もすっかりきれいになった。当家的ご老人と写真を撮る。ご老人の顔が嬉しそうにくずれている。

3軒目は集落の奥の小山に建てられたこの村の守り神、鎮守様の雪降ろしだ。藤製のカンジキを履いて膝深の雪の斜面を登っていく。シンプルなカンジキでうまく紐を結ばないとたちまち脱落してしまう。Sさんは外れたカンジキと格闘だ。去年は屋の棟がすっぽりと雪に包まれたこの社の雪降ろしを行ったが、積雪は昨年より少なめで屋根の雪には手が届かない。

昼食に寄ったお蕎麦屋さんは古風で立派な東北家屋だ。造りはがっちりとして重厚だ。和室には豪華な黒檀作りの仏壇が嵌めこまれ、きっちりと磨かれてこの家の核となって威厳がある。お蕎麦は食感も味もしっかりとしてとても美味であった。この家は民宿でもあって、尋ねたところ予想外のお安い宿賃に驚いた。





【肘折温泉】

戸沢村から車で 30 分ほど。月山から途中の避難小屋で 1 泊し肘折温泉に滑りこむ長大な山スキールートがある。開湯 1200 年の歴史ある温泉。泉質はナトリウム-塩化炭酸水素。淡い褐色の湯で使い込まれた湯船の佇まいは長い歴史を刻んだことを実感させる。

【山寺立石寺】



帰途 13 号線を左折し山寺立石寺に寄ってみる。

晴れ渡った今日の立石寺は、猛々しい岩峰と白雪のコントラストが荘厳な感じを際立たせる。高みに向かって延々と続く雪の石段は人が通れる程の道幅を除雪してあるのだが、日陰にあたる部分は凍ってひどく歩きにくい。各堂坊は仮の雪囲いを施してあり外観を損ねているのだが、松尾芭蕉の時代から続く歴史の重みはずっしりと感じられる。五大堂展望台から眼下に広がる眺望は実に晴れやかで、雪を被る周囲の山々も清々しく鮮やかであった。

昼食に寄った蕎麦屋で「いも煮そば」を堪能し、ご主人から蕎麦のうんちくを聞くなかで、戸沢村で産する蕎麦粉が際立って上質、貴重なものでなかなか手に入り難いものだと言った。思いがけず戸沢村の評判を聞いて嬉しい心持がした。

以上

県連たより

千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)

- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ
事務局への問い合わせまでお願いします。
- ◎ 加盟会会員の事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
機関紙委員会・広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、
ご意見・問い合わせなどは・広木まで

NPO法人「ちば労山ゆう」

- 「ちば労山ゆう」とは、東日本大震災を支援するために、千葉県勤労者山岳連盟を母体として活動を始めた、被災者支援NPO法人です。
- ◎ 「ちば労山ゆう」への入会は
千葉県連盟ホームページから
常時入会出来ます。
・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>

 - ◎ 支援活動日のお知らせ
 - ・ 3月19・20日 谷川浜
 - ・ 4月23・24日 福島県

 - ◎ 支援物資販売活動について
皆様のご協力により、交通費の補助に役立っています。
引き続きご協力をお願いします。
三陸・気仙沼直送の支援物資は
「おさしみわかめ」「さしみこんぶ」
「くきわかめ」「すき昆布」
「とろろこんぶ」
おさしみこんぶは、鍋料理、昆布巻きにするとおいしいと評判です。
宅配も、相談下さい。
支援物資に関する問い合わせは
下記アドレスに連絡を！
danphiro@zpost.plala.or.jp

県 連 活 動 予 定 表

3月		行事予定	4月		行事予定
1	火		1	金	
2	水		2	土	
3	木		3	日	
4	金		4	月	女性委員会
5	土		5	火	
6	日	県連総会	6	水	
7	月		7	木	
8	火	県連役員会(予定)	8	金	
9	水		9	土	
10	木		10	日	
11	金		11	月	
12	土		12	火	県連役員会(予定)
13	日		13	水	
14	月		14	木	「ちば労山ゆう」 総会
15	火		15	金	
16	水		16	土	
17	木	県連理事会	17	日	
18	金		18	月	
19	土	NPO支援活動(谷川浜)	19	火	
20	日	〃	20	水	
21	月		21	木	県連理事会
22	火		22	金	
23	水		23	土	NPO支援活動・足尾植樹祭
24	木		24	日	〃 〃
25	金		25	月	
26	土		26	火	
27	日		27	水	
28	月		28	木	
29	火	NPO法人「ゆう」 役員会	29	金	
30	水		30	土	
31	木				

発行者：千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所に常駐者はいません)

発行責任者：吉田 哲治

編集責任者：広木 国昭

問い合わせ先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ